



6月定例市議会 市長所信

6月議会が6月8日から25日までの18日間の日程で開催されました。開会日には、議案審議に先立ち、当面する市政の重要課題につきまして、市長より所信が表明されました。今議会で表明された主な内容につきましては、次のとおりです。

災害に強い安全・安心な新庁舎

本市の新庁舎に関して、2点喜ばしいニュースがありますのでご報告します。

1つ目は、一般社団法人日本建築協会が主催する第17回「建築と社会」賞の入賞が決定しました。

この受賞は、新庁舎が開放的な内部空間と免震装置による防災機能の両立に加え、自然換気や太陽光発電システム等が環境に配慮した建築作品として、高く評価されたことによるもので、6月21日に大阪府で表彰式が行われます。2つ目は、国土交通省が5月18日に取りまとめた「防災拠点等となる建築物に係る機能継続ガイドライン」の中で、「防災拠点建築物となる事例集」として、新庁舎の防災機能や特徴などがくわしく紹介されています。

このガイドラインは、熊本地震を教訓に大地震時に防災拠点等となる建築物について、大地震時の安全性確保に加えて機能継続を図るため、企画・設計・管理の各段階において、地方公共

阿南医療センターについて

医療センターは、徳島県厚生農業協同組合連合会（J A徳島厚生連）が、平成29年4月から医療センター新棟の建築工事に掛かり、平成31年春の開院をめざして順調に工事は進んでいると伺っています。

現在の進捗状況については、現阿南中央病院の東側に建設します鉄骨造り6階建ての新棟の基礎工事と免震装置の据付を行って、7月中旬には、地上部分に鉄骨を立ち上げ、2カ月後には鉄骨の枠組みが完成することです。

また、本市が平成26年度から整備を進めてきた、県道大林津乃峰線と医療センターおよび阿南健康づくりセンターとのアクセス道路の1つとなる「市道荒井幹線」については、4月8日に開通しました。

こうした中、J A徳島厚生連においては、現在の両病院が一体となって、医療センターの診療体制等のより一層の充実・強化を図るために、4月1日より新たに「阿南共栄病院・阿南中央病院統括院長」を設けられ、元徳島大学医学部長の玉置俊晃先生がご就任されています。

玉置統括院長は、両病院の円滑な統合に向けての業務を執行するとともに、診療体制整備のための医師の招へいなどに努めると伺っていることから、医

団体や建築関係団体等が参考とする事項や事例を紹介したものです。

新庁舎は、南海トラフ巨大地震や津波など大規模災害時に防災拠点としての役割を果たし、地震後も機能を継続できるよう「災害に強い安全・安心な庁舎」をコンセプトとして建設しました。

新庁舎が、名誉ある賞を受賞することや防災拠点建築物の事例として取り上げていただいたことは、本市の建設コンセプトが広く認知されたものであり、幸甚の至りに存じます。あらためまして、新庁舎の設計・施工に携わった関係者の方々に深く感謝の意を表します。

子ども議会の開催

市制施行60周年記念事業の一環として、8月3日に本議場において、市内22の小学校の代表児童による「子ども議会」を開催する予定で、現在、準備を進めています。

子ども議会は、児童や生徒を対象に、地方自治体が行う模擬議会で、本市で

療センターの医師確保等に大きな役割を果たされるものと存じています。

さらに、県においては、5月16日に厚生労働省で開催されました同省主管の「地域医療構想に関するワーキンググループ」および5月28日に都道府県会館で開催されました全国知事会主管の「地域医療研究会」において、医療センターの設立が、中核病院の再編・統合による優良事例として、厚生労働省および全国知事会の依頼により報告されたとのこと。

全国知事会での発表では、広報あなん平成26年7月号の「地域医療の明日を考える」と題しての特集記事を活用して報告がされています。

こうしたことは、旧阿南医師会中央病院と阿南共栄病院の統合による医療センターの設立が、先進的なモデル事業として、全国から注目をされている証しであるとと考えています。

高齢者福祉計画および介護保険事業計画について

平成30年度から32年度までの3年間を計画期間とする「阿南市高齢者福祉計画」および「第7期阿南市介護保険事業計画」を3月に策定しました。

この計画では、今後予測される少子化との併行による高齢者割合の増加や、団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となる2025年に向け、これまで

は、平成5年に始まり、今回で5回目の開催となります。会議では、議長、副議長、質問者、議案提案者といった役割のもと、子ども主導で議会を運営し、「私たちがつくる阿南の未来」をテーマに、市議会本会議に準ずる形で質問と答弁を行います。

子ども議員の皆さんには、模擬議会の体験を通じて、議員の役割や市政について関心を持っていただくとともに、自分の住むまちの課題などを知り、理想とするまちの姿を思い描きながら、これからのまちづくりについて考えることで、子どもたちの主権者意識の高揚と郷土愛の醸成が図られるものと考えています。

当日は、子ども議員が、まちづくりの「小さな主役」として、市議会本会議ながら、活発な議論が展開されることを期待しています。

台湾野球代表チームのキャンプ地誘致について

東京オリンピックでの台湾野球代表チームの事前キャンプ地誘致に向け、

の計画で構築してきた地域包括ケアシステムをより深く推進するために、高齢者のみならず、障がい者、児童、生活困窮者などを含めた地域や個人が抱える生活問題を解決していくことができるよう「我が事・丸ごと」の包括的な支援体制を整備し、地域共生社会の実現をめざすものです。

今後3年間、「高齢者が住み慣れた地域で支え合い、全ての人がいきいきと輝き、暮らし続けられる、あたたかい地域社会の実現」を基本理念として、地域住民や関係機関等と連携を密に図りながら、計画に基づく具体的な各施策を着実に進めてまいります。

国直轄の河川および道路事業

本市に係る本年度の河川事業予算は、加茂地区で整備されている那賀川床上浸水対策特別緊急事業費に約12億円、長安口ダムの改造事業費に約77億円、桑野川河口部の地震・津波対策など河川改修事業費として約4億円となっています。

また、道路事業予算は、四国横断自動車道「阿南・徳島東間」に昨年度の約1.5倍となる約134億円、阿南安芸自動車道「桑野道路」に約5億円、「福井道路」に約3億円、また、一般国道55号「阿南道路」の4車線化に約11億円の配分をいただいています。なお、本年度は、四国全体の国土交

6月8日から3日間、「台湾ベースボールフェスティバル」を開催します。特に、6月9日と10日は、台湾野球協会のキーマンである林華偉副理事長と林宗成事務局長を本市にお招きするとともに、J Aアグリあなんスタジアムにおいて、「国際スポーツとくしま親善大使」の張泰山選手が率いる社会人野球チーム「台中市台湾人壽成棒隊」と「徳島インディゴソックス」、そして、「四国アイランドリーグplus選抜チーム」による国際親善試合を実施するほか、少年野球教室や台湾の食文化を紹介する台湾フェスタを開催することで、誘致事業の機運醸成を図っていきます。

オリンピック事前キャンプは、本市の魅力の世界へ発信し、市民が世界と触れ合い、「野球のまち阿南」ブランドの確立につながる絶好の機会となります。このフェスティバルでは、関係ボランティア団体の協力による心のこもった「おもてなし」や「人情」に触れていただくことで、阿南の魅力を最大限アピールし、誘致実現につなげたいと思います。

通省直轄事業予算の約18パーセントが本市に関係する直轄事業に投入されていると伺っていますが、このことは、官民協働の地域振興組織である「那賀川渇水対策協議会」や「阿南市高規格道路等建設促進期成同盟会」が、長年にわたり国等への強い要望活動を重ねてきたことによる大きな成果です。

このような国が行う事業により、河川事業では、南海トラフの巨大地震や津波、あるいは台風や豪雨の自然災害に備え、人命・財産の安全性を高めるとともに、道路事業では、高速道路ネットワークなどの整備により、「ひと・もの」の交流が促進される「活力の道」となることはもとより、災害時の緊急輸送道路や救急医療における「命の道」となるべく努めています。

いずれも本市にとっては、地方創生の実現に向けた最重要課題であると認識しており、今後も国土交通省をはじめ、関係機関と密接な連携を図りながら、積極的に推進してまいります。

紙面の都合上、抜粋して要旨部分のみ掲載しています。全文をご覧になりたい方は、市ホームページをご覧ください。また、後日作成されます市議会会議録は市立図書館等で閲覧することができます。